

▼ 不正な管理人 2018.06.24

▼ さまざまな不思議・・・

▼ 主人は、不正な管理人が賢く行動したのをほめた。

- 主人は、何をほめたのか？何が賢いのか？
- 債務証書を書き換えることは、さらなる背信ではないのか
- 主人と管理人は、その後どうなったのか

▼ この世の子らは、自分と同じ時代の人々の扱いについては、光の子らよりも賢いのである。

- 光の子らとは誰のこと？

▼ 不正の富で、自分のために友をつくりなさい。

- 不正な富で友を作れとは？
- そうすれば、富がなくなったとき、彼らがあなたがたを永遠の住まいに迎えてくれます。

▼ ですから、あなたがたが不正の富に忠実でなければ、だれかがあなたがたに、まことの富を任せるでしょうか。

- 不正の富に忠実とは？
- 諷：まことの富 → まことのもの

▼ 神と富とに仕えることはできません。

- 不正な管理人の話とどうつながるのか？

▼ 弟子の立場で読んでみよう

▼ 弟子たちに、何を教えようとしたのか。弟子たちは、どう聞いたのか。

- イエスは弟子たちに対しても、次のように語られた。
- 管理人—取税人、小作人—弟子たち

▼ 金好きはピンと来た。彼らは、どう聞いたのか

- 金銭を好むパリサイ人たちは、これらすべてを聞いて、イエスをあざ笑っていた。16：14

▼ 『負債を赦す』

▼ 金貸しを愛するのはどちらか（涙でぬぐった罪深い女の話）7：36-50

- "さて、あるパリサイ人が一緒に食事をしたいとイエスを招いたので、イエスはそのパリサイ人の家に入って食卓に着かれた。

すると見よ。その町に一人の罪深い女がいて、イエスがパリサイ人の家で食卓に着いておられることを知り、香油の入った石膏の壺を持って来た。"

ルカの福音書 7章36～37節

"「ある金貸しから、二人の人が金を借りていた。一人は五百デナリ、もう一人は五十デナリ。

彼らは返すことができなかったで、金貸しは二人とも借金を帳消しにしてやった。それで、二人のうちのどちらか、金貸しをより多く愛するようになるでしょうか。」

シモンが「より多くを帳消しにもらったほうだと思います」と答えると、イエスは「あなたの判断は正しい」と言われた。"

ルカの福音書 7章41～43節

"ですから、あたしはあなたに言います。この人は多くの罪を赦されています。彼女は多く愛したのですから。赦されることの少ない者は、愛することも少ないのです。"

ルカの福音書 7章47節

▼ 我らに負債のある者を赦します 11：4

- "私たちの罪をお赦してください。私たちも私たちに負い目のある者をみな赦します。私たちが試みにあわせないでください。』"

ルカの福音書 11章4節

▼ 取税人で金持ちのザアカイ 19：1-10

- "それからイエスはエリコに入り、町の中を歩いておられた。

するとそこに、ザアカイという名の人があった。彼は取税人のかしらで、金持ちであった。

彼はイエスがどんな方かを見ようとしたが、背が低かったので、群衆のために見ることができなかった。

それで、先の方に走って行き、イエスを見ようとして、いちじく桑の木に登った。イエスがそこを通り過ぎようとしておられたからであった。

イエスはその場所に来ると、上を見上げて彼に言われた。「ザアカイ、急いで降りて来なさい。あたしは今日、あなたの家に泊まることにしているから。」

ザアカイは急いで降りて来て、喜んでイエスを迎えた。

人々はみな、これを見て、「あの人は罪人のところに行き、客となった」と文句を言った。

しかし、ザアカイは立ち上がり、主に言った。「主よ、ご覧ください。私は財産の半分を貧しい人たちに施します。だれかから脅し取った物があれば、四倍にして返します。」
イエスは彼に言われた。「今日、救いがこの家に来ました。この人もアブラハムの子なのですから。人の子は、失われた者を捜して救うために来たのです。」

▼ 債務証書を無効にしていた コロサイ 2:13-14

- "背きのうちにあり、また肉の割礼がなく、死んだ者であったあなたがたを、神はキリストとともに生かしてくださいました。私たちのすべての背きを赦し、
私たちに不利な、様々な規定で私たちを責め立てている債務証書を無効にし、それを十字架に釘付けにして取り除いてくださいました。"
コロサイ人への手紙 2章13～14節

▼ ヨベルの年 レビ記 25:

- "あなたは安息の年を七回、すなわち、七年の七倍を数える。安息の年が七回で四十九年である。あなたはその第七の月の十日に角笛を鳴り響かせる。宿めの日に、あなたがたの全土に角笛を鳴り響かせる。あなたがたは五十年目を聖別し、国中のすべての住民に解放を宣言する。これはあなたがたのヨベルの年である。あなたがたはそれぞれ自分の所有地に帰る、それぞれ自分の家族のもとに帰る。"
レビ記 25章8～10節

▼ ほかにも

▼ マタイ 18: 王の家来の負債清算

- "そのとき、ペテロがみもとに来て言った。「主よ。兄弟が私に対して罪を犯した場合、何回赦すべきでしょうか。七回まででしょうか。」
イエスは言われた。「あたしは七回までとは言いません。七回を七十倍するまでです。
ですから、天の御国は、王である一人の人にたとえることができます。その人は自分の家来たちと清算をしたと思った。
清算が始まると、まず一万タラントの負債のある者が、王のところに連れて来られた。
彼は返済することができなかったので、その主君は彼に、自分自身も妻子も、持っている物もすべて売って返済するように命じた。
それで、家来はひれ伏して主君を拜し、『もう少し待ってください。そうすればすべてお返しします』と言った。
家来の主君はかあいそうに思って彼を赦し、負債を免除してやった。
ところが、その家来が出て行くと、自分に百デナリの借りがある仲間の一人に出会った。彼はその人を捕まえて首を絞め、『借金を返せ』と言った。
彼の仲間はひれ伏して、『もう少し待ってください。そうすればお返しします』と嘆願した。
しかし彼は承知せず、その人を引いて行って、負債を返すまで牢に放り込んだ。
彼の仲間たちは事の成り行きを見て非常に心を痛め、行って一部始終を主君に話した。
そこで主君は彼を呼びつけて言った、『悪い家来だ。おまえが私に懇願したから、私はおまえの負債をすべて免除してやったのだ。
私がおまえをあわれんでやったように、おまえも自分の仲間をあわれんでやるべきではなかったのか。』
こうして、主君は怒って、負債をすべて返すまで彼を獄吏たちに引き渡した。
あなたがたもそれぞれ自分の兄弟を心から赦さないなら、あたしの天の父もあなたがたに、このようになさるのです。」"
マタイの福音書 18章21～35節

▼ バビロンから帰ってきて ネヘミヤ記 5:1-13

- "さて、民とその妻たちから、同胞のユダヤ人たちに対して強い抗議の声があがった。
ある者は、「私たちに息子や娘がいて、大人数だ。食べて生きるために穀物を手に入れなければならない」と言い、
またある者は、「私たちの畑も、ぶどう畑も、家も抵当に入れなければならない。この飢饉に際して穀物を手に入れるために」と言った。
またある者は言った。「私たちは、畑やぶどう畑に課された王の税金を支払うために、金を借りなければならない。」
現に、私たちの血肉は私たちの同胞の血肉と同じだし、私たちの子どもも彼らの子どもと同じだ。それなのに、今、私たちは息子や娘を奴隷に売らなければならない。実際、もう娘が奴隷にされている者もいる。ところが、私たちの畑もぶどう畑も他人の所有となっているので、私たちに何をする力もない。」
私は彼らの抗議と、これらのことばを聞いて、激しく腹を立てた。
私は十分考えたうえで、有力者たちや代表者たちを非難して言った。「あなたがたはみな、自分の同胞たちに、利子をつけて金を貸している。」そして大集会を開いて彼らを責め、
彼らに言った。「私たちは、異邦の民に売られた同胞のユダヤ人を、できる限り買い取った。それなのに、あなたがたはまた自分の同胞を売ろうとしている。彼らはまた私たちに売られなければならない。」すると彼らは黙ってしまい、一言も言えなかった。
私は続けた。「あなたがたのしていることは良くない。あなたがたは、私たちの敵である異邦の民から侮辱を受けることなく、私たちの神を恐れつつ歩むべきではないか。
私も、私の親類の者も、私の配下の若い者たちも、彼らに金や穀物を貸してやったが、私たちはその負債を帳消しにしよう。」

だから、あなたがたも今日、彼らの畑、ぶどう畑、オリーブ畑、家、それに、あなたがたが彼らに貸していた金や穀物、新しいぶどう酒、油などの利息分を彼らに返してやりなさい。」
すると彼らは、「私たちは返します。彼らから何も要求しません。私たちはあなたの言われるとおりにします」と言った。
そこで私は祭司たちを呼んで、この約束を実行する誓いを立てさせた。
私はまた、衣の裾を振って言った。「この約束を果たさない者はだれでも、神がこのように、その人の家から、また、その人の勤労の実から振り落としてくださいますように。このように振り落とされて、無一文になりますように。」すると全会衆は、「アーメン」と言って主をほめた。こうして民はこの約束を実行した。”
ネヘミヤ記 5章1～13節

▼ ダビデのところに来た者たち 1サムエル22：2

- “そして、困窮している者、負債のある者、不満のある者たちもみな、彼のところに来たので、ダビデは彼らの長となった。約四百人の者が彼とともにいるようになった。”
サムエル記 第一 22章2節

▼ 不正な管理人の目的は？

- こうしよう。管理の仕事をやめさせられても、人々が私を家に迎えてくれるように

▼ 不正の富で、自分のために友をつくりなさい。そうすれば、富がなくなったとき、彼らがあなたがたを永遠の住まいに迎えてくれます。

- 訳：富がなくなったとき - クビになった時？

▼ 放蕩息子の話：父のあわれみと兄の正しさ

▼ 父というものは、子が帰ってくることを喜ぶものだ

- 父のあわれみを信じた

▼ 負債免除されたものは、相手を愛するものだ

- 富に信頼したのではなく、あわれみを信じて富を捨てた

▼ ルカ福音書の全体構造の中での位置づけ

▼ ルカ福音書の特徴は

- 金持ち、財産、負債・・・
- 帰る、悔い改める、エルサレムへ

▼ 15：1-17：19 罪の赦しがテーマ

- 取税人たちや罪人たちが集まり、「この人は罪人たちを受け入れて、一緒に食事をしている」ところからはじまる
- 神の国の正しさとこの世の正しさの対立
- 罪を赦すあわれみと律法に従う（従っているつもり）正しさの戦い
- 主イエスのあわれみとパリサイ人の正しさ

▼ 15：パリサイ人に、16a：弟子に、16b：パリサイ人に、17：弟子に

- 何分の何、何倍
- 悔い改める、帰る
- 負債、財産、富、金

▼ 不正の富（富に仕えない）

▼ どん欲に気をつけ御国を求めよ。主が来られる時、「忠実で賢い管理人」であれ 12：15-44

- “そして人々に言われた。「どんな・欲にも気をつけ、警戒しなさい。人があり余るほど持っていて、その人のいのちは財産にあるのではないからです。」
ルカの福音書 12章15節
“何を食べたらよいか、何を飲んだらよいかと、心配するのをやめ、気をもむのをやめなさい。
これらのものはすべて、この世の異邦人が切に求めているものです。これらのものがあなたがたに必要であることは、あなたがたの父が知っておられます。
むしろ、あなたがたは御国を求めなさい。そうすれば、これらのものはそれに加えて与えられます。
小さな群れよ、恐れることはありません。あなたがたの父は、喜んであなたがたに御国を与えてくださるのです。
自分の財産を売って施しをなさい。自分のために、天に、すり切れない財布を作り、尽きることのない宝を積みなさい。天では盗人が近寄ることも、虫が食い荒らすこともありません。
あなたがたの宝のあるところ、そこにあなたがたの心もあつたのです。”
ルカの福音書 12章29～34節

“あなたがたも用心していなさい。人の子は、思いがけない時に来るのです。”

そこで、ペテロが言った。「主よ。このたとえを話されたのは私たちのためですか、皆のためですか。」

主は言われた。「では、主人によって、その家の召使いたちの上に任命され、食事時には彼らに決められた分を与える、忠実で賢い管理人とは、いったいだれでしょうか。」

主人が帰って来たときに、そのようにしているのを見てもらえるしもべは幸いです。
まことに、あなたがたに言います。主人はその人に自分の全財産を任せるようになります。”
ルカの福音書 12章40～44節

▼ パリサイ人の正しさ (正しい富に忠実)

▼ パリサイ人の祈りと取税人の祈り 18:9-14

- "自分は正しいと確信していて、ほかの人々を見下している人たちに、イエスはこのようなたとえを話された。
「二人の人が祈るために宮に上って行った。一人はパリサイ人で、もう一人は取税人であった。
パリサイ人は立って、心の中でこんな祈りをした。『神よ。私がほかの人たちのように、奪い取る者、不正な者、姦淫する者でないこと、あるいは、この取税人のようでないことを感謝します。
私は週に二度断食し、自分が得ているすべてのものから、十分の一を献げています。』
一方、取税人は遠く離れて立ち、目を天に向けようとせず、自分の胸をたたいて言った。『神様、罪人の私をあわれんでください。』
あなたがたに言いますが、義と認められて家に帰ったのは、あのパリサイ人ではなく、この人です。だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるのです。』”
ルカの福音書 18章9～14節

▼ 金持ちの指導者 (青年) 18:18-23

- "また、ある指導者がイエスに質問した。「良い先生。何をしたら、私は永遠のいのちを受け継ぐことができるでしょうか。」
イエスは彼に言われた。「なぜ、わたしを『良い』と言うのですか。良い方は神おひとりのほか、だれもいません。戒めはあなたも知っているはずですよ。『姦淫してはならない。殺してはならない。盗んではならない。偽りの証言をしてはならない。あなたの父と母を敬え。』”
するとその人は言った。「私は少年のころから、それらすべてを守ってきました。」
イエスはこれを聞いて、彼に言われた。「まだ一つ、あなたに欠けていることがあります。あなたが持っている物をすべて売り払い、貧しい人たちに分けてやりなさい。そうすれば、あなたは天に宝を持つことになります。そのうえで、わたしに従って来なさい。」
彼はこれを聞いて、非常に悲しんだ。大変な金持ちだったからである。”
ルカの福音書 18章18～23節

▼ 主人の財産を預かったしもべたち 10ミナ、5ミナ 19:11-27

- 人々がこれらのことばに耳を傾けていたとき、イエスは続けて一つのたとえを話された。イエスがエルサレムの近くに来ていて、人々が神の国がすぐには現れると思っていたからである。
イエスはこう言われた。「ある身分の高い人が遠い国に行った。王位を授かって戻って来るためであった。彼はしもべを十人呼んで、彼らに十ミナを与え、『私が帰って来るまで、これで商売をしなさい』と言った。一方、その国の人々は彼を憎んでいたため、彼の後に使者を送り、『この人が私たちの王になるのを、私たちは望んでいません』と伝えた。
さて、彼は王位を授かって帰って来ると、金を与えておいたしもべたちを呼び出すように命じた。彼らがどんな商売をしたかを知ろうと思ったのである。
最初のしもべが進み出て言った。『ご主人様、あなた様の一ミナで十ミナをもうけました。』
主人は彼に言った。『よくやった。良いしもべだ。おまえはほんの小さなことにも忠実だったから、十の町を支配する者になりなさい。』
二番目のしもべが来て言った。『ご主人様、あなた様の一ミナで五ミナをもうけました。』
主人は彼にも言った。『おまえも五つの町を治めなさい。』
また別のしもべが来て言った。『ご主人様、ご覧ください。あなた様の一ミナがございませぬ。私は布に包んで、しまっておきました。
あなた様は預けなかったものを取り立て、儲けなかったものを刈り取られる厳しい方ですから、怖かったのです。』
主人はそのしもべに言った。『悪いしもべだ。私はおまえのことばによって、おまえをさばこう。おまえは、私が厳しい人間で、預けなかったものを取り立て、儲けなかったものを刈り取ると、分かっていたというのか。
それなら、どうして私の金を銀行に預けておかなかったのか。そうしておけば、私が帰って来たとき、それを利息と一緒に受け取れたのに。』
そして、そばに立っていた者たちに言った。『その一ミナをこの者から取り上げて、十ミナ持っている者に与えなさい。』
すると彼らは、『ご主人様、あの人はすでに十ミナ持っています』と言った。
彼は言った。『おまえたちに言うが、だれでも持っている者はさらに与えられ、持っていない者からは、持っている物までも取り上げられるのだ。
またさらに、私が王になるのを望まなかったあの敵どもは、ここに連れて来て、私の目の前で打ち殺せ。』”
ルカの福音書 19章1～27節

▼ 金持ちとラザロ：父アブラハムの慰めと金持ちの善

- 金銭を好むパリサイ人たちは、これらすべてを聞いて、イエスをあざ笑っていた。
- 終りの日が来る前に、律法と預言者の教えを聞き、死んでから悔い改めても遅い
- ▼ 「この世の子らは、自分と同じ時代の人々の扱いについては、光の子らよりも賢い」
 - 16a: では、生きている間に何をすべきかを教えている

▼ 富に仕えるな テモテへの手紙 6:9-10, 17-19

- "金持ちになりたがる人たちは、誘惑と罟と、また人を滅びと破滅に沈める、愚かで有害な多くの欲望に陥ります。金銭を愛することが、あらゆる悪の根だからです。ある人たちは金銭を追い求めたために、信仰から迷い出て、多くの苦痛で自分を刺し貫きました。"

テモテへの手紙 第一 6章9～10節

"今の世で富んでいる人たちに命じなさい。高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませてくださる神に望みを置き、

善を行い、立派な行いに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、

来たるべき世において立派な土台となるものを自分自身のために蓄え、まことのいのちを得るよう命じなさい。"

テモテへの手紙 第一 6章17～19節

▼ 最後に

- 聞いていた弟子のひとりには、不正な管理人イスカリオテのユダだった